干支学から見る酉年の傾向

著述業（高島暦著者）・東京恵比寿RC 井上 象英 様

卓話者紹介　　**田邊　恵三会員**

井上先生は東京恵比寿 RC のチャーターメンバーで、地区青少年奉仕委員会ではＲＹＬＡの委員長であります。東京商工会議所女性会では副会長職も務められ、また、政財界の著名な方々にご指南をされています。先生の卓話は今年で６回目になります。

干支の起源は中国の殷の時代に遡り、紀年法として天の気「干」と地の気「支」のそれぞれに意義と働きをもたせ、政治活動や天変地異を予測する卜占に使われていました。

そこで、平成２９年はどの様な傾向にあるのか、干支學で推測してみましょう。

今年､平成２９年は干支では｢丁酉(ひのととり)｣「ていう」の年となります。

十干の「丁（テイ）」は火の弟で南南西に位置し夏の終わりを指します。本義は「あたる」で属性は「壮（さかん）」。象形では「釘」を象っていますので、Ａに対するＢの対抗軸としての働きがあり、従来からの脱却を目指す新旧の衝突を暗示しています。また、楚辞に「丁、當也」とあり、説文にも「万物之丁壮也」とあります。つまり、打ち当るモノに入るエネルギーから打倒や改革の兆を指しています。

十二支の酉（う）は１０番目の地支。五行では金に属し、時刻では午後五時～七時迄の間。

方位は西。季節は秋。象形は「酒器」で米から作る酒の原字ですが、酒の原料の麹がまさに醗酵して、その環境も大いに変化してゆく意味も含んでいる為、その意義は“熟成”や“配”“老いる”とされます。故事に「陽生酉仲、陰生戌仲」とあるが、これは万物の生成と化育の循環を表わしています。

九星では一白水気性が定盤の一年に。この星は北に位置し属性は「水」。その徳性は「陥る」であって万物が就眠するころ。「寒蹇」でもあります。また、水は流動し蒸発し氷結もします。易の六十四卦に「水火既済」とあるが、“巧業すでに成り保ち難く後乱れる”象で善悪共に働き動く意があります。

そこで今年の干支が象徴する動きですが、「丁」は「一」と「丨」で構成される火気。火はモノを照らし、暖を取り、煮炊きの用を為しますがその使用を誤ったならば、全てを焼き尽くす災禍を越す暗示があります。また、「一」は前年の陽気で「丨」は新勢力の突き上げを象っていて「町」や「丁数」の意と、「丁寧」な注意深さという多様な文字。正しく昨年の「伸と神」におけるリスクを象徴するかのようでもあります。

とくに「酉」は熟成をその象意とする為、不安材料も多く、政治も経済も「腐熟」しないことを願いたい状況ですが、完熟して腐る一歩手前の気概がしないでもない。

そこで、一白の水は、高い所から低い所へ動く性質があり、欠けた場所に集まる性質をもっています。そして、「方円の器に従う」柔軟性も。水の流れを“人やお金の流れ”“情報”とすれば、環境によっては善悪共に作用し、財政は潤沢に流れるのか滞り情報は隠蔽されるかです。つまり、万事が閉塞すれば腐敗した政治体制に与える影響も大きいのです。その本質を問う異論反論、甲論乙駁も半端ではないでしょう。

昨年は、熊本や鳥取地震、阿蘇の噴火、長雨や豪雨の自然災害に苦しんだ丙申でしたが、首長や組長の不正、築地やオリンピック施設問題に翻弄した年でもありました。

今年は、政治構造の再編があるかも知れません。丁の新旧体制のぶつかり合いでは仁義どころではない。縦の人間関係が希薄になり常識の線引きも難しい。

従って、どの分野に於いても「質」が問われる暗示です。虚偽や秘密の露見、教育や医療問題にもメスが入るかも知れません。また、丁と酉に共通する要素は“異種混合”です。

つまり精神世界はもちろん、身近でない社会一般でも成熟した新時代の幕開けを読み取ることが出来ます。態勢としては｢外｣から｢内需の質を高める｣を目指す年と言えそうです。

閉会点鐘　　**小田　孝志会長**

創 立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾒｿﾞﾝ九段 906号
Tel：03-3288-7300 Fax：03-3288-7400
E-mail：ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
http://tokyo-orc.jp/

例会日 毎週水曜日　12:30～13:30
例会場 ホテルグランドパレス　Tel：03-3264-1111
会　長 小田　孝志　　幹事 奥山　聡
会　報 八木　壮一（委員長）松島　健（副委員長）
大原正道 佐々木啓策 山下秀一 山下憲男(委員)